



短角牛生産者との意見交換は、短角牛が見つめる中、エリート牧場で行われました

当然上がるもの。なのに、価格が上がらない短角牛。

その理由の一つに、日本に根付いた「霜降り文化」ともいえる食文化があります。「霜降りのある肉」高価でおいしい肉」という考え方が根付いているのです。霜降りのある黒毛和牛は上質の牛肉として高値で取引され、その一方で、

人気でも価格低迷はなぜ？霜降り文化との戦い

うまみがあって脂肪が少ない、健康志向に合った短角牛。いわてくじ農協が進めた純国産飼料で育てるという取り組みが実を結びはじめています。「大地を守る会」をはじめ、安全な牛肉を求める団体が短角牛を定期的に購入するなど、人気は確実に高まっています。人気が高くなれば、価格は

短角牛のような赤身肉は、健康志向に合って人気が高まっているとはいえ、まだまだ安い肉という印象が強いのです。黒毛和牛の経営は短角牛よりも商売になるため、山形町内でも黒毛和牛の飼育農家が

増えています。県内では、短角牛の飼養頭数と農家戸数が平成3年に14819頭、2495戸であったのが、平成18年には4334頭、563戸と、3分の1以下に激減し

ています。黒毛和牛経営の人氣、従来の短角牛農家の高齢化などが原因です。

健康ブランド確立へ短角牛の良さ宣伝へ

8月6日にエリート牧場で行われた、達増拓也岩手県知事と短角牛生産者との意見交換会では、「短角牛独特の赤身肉の良さを宣伝したい。県を挙げての協力を」「日本短角種繁殖センターを充実させ、短角牛を安定して繁殖させることができるよう支援願いたい」との要望が出されました。達増知事は「短角牛が注目され始めている今、チャンスであると同時に勝負の時期。

短角牛の産地として確立できれば、21世紀に通用する産業となる可能性を秘めている。県を挙げて広報したい」と協力約束しました。

安全・安心な食への意識が高まる今、見直されつつある短角牛。需要に応えるため、繁殖農家の新規開拓が求められています。その解決のためには、農家の高齢化、市場での短角牛の評価という2つの大きな問題が横たわります。食肉市場に新たな「健康ブランド」を確立するため、市場で生き残っていくための挑戦はこれからも続きます。

「伸びよ短角牛」終わり

用語解説

繁殖農家・肥育農家：短角牛農家は繁殖農家と肥育農家に分かれます。繁殖農家は、春に放牧し、冬に子牛を生み育てます。肥育農家は子牛を購入し、牛舎で育て、食肉市場に出荷します。繁殖と肥育をどちらも行う「貫経営農家」もあります。夏山冬里方式：足腰が強い短角牛独特の放牧方法です。春から放牧を始め、秋になると牛舎へと戻ります。日本短角種繁殖センター：繁殖農家が減少していることから、肥育するための子牛が安定して繁殖できるように市が整備した繁殖施設。白樺平公共牧場内に立地。いわてくじ農協で施設を借り受け、運営しています。

市民協働道路維持補修事業を実施中です

協働は「地域の絆」へ

市民と市による「協働」作業は2年目を迎え、形になりつつあります。市民は労働力を、市は道具や材料、技術をお互いに提供します。工事は地域住民の協力により、地域の実情に合ったものに、そして、一緒に汗を流すことにより、「大切に使おう」という気持ちの芽生えと「地域の絆」づくりへとつながり始めています。



協働して作業に当たる参加者たち

昨年度から、「市民協働道路維持補修事業」が始まりました。これは、今まで市が直していた市道などを、市民と協働（協力）で直すことです。

（小規模な工事のみ）

今までは、市民から「道路を直してほしい」と要望があっても、市の財政状況から、すぐにできないことがありました。また、「簡単にできるから自分たちで道路を直させてほしい」と市民から要望があっても、様々な問題から、市民に道路を直してもらうことができませんでした。

この事業では、市民は労働力を、市は原材料や建設機械による専門的な作業、技術などをそれぞれ提供します。これによって、経費が削減され、かつ、地域の実情に合った道

市民協働道路維持補修事業って？

- できること 市道や生活道（私道は除く）の小規模な整備や補修（側溝の設置、コンクリート舗装など）
- 役割分担 地域住民には主に、労働力や地域にある原材料などを提供いただきます。市は、原材料や建設機械など専門的な部分を提供します。
- 申請方法 事業を行いたい旨を土木課（内線368）へ申し込みください。緊急性や必要性などを審査して決定します。毎年度初めに広報などで募集します。



路整備をすることができます。また、市民が労働力として活動することで、現在、希薄になりつつある「地域の絆」づくりにも効果があるものと期待されています。

昨年度は5件、本年度は7件の事業の実施が予定されています。8月18日、小久慈町の下柏木親友会（日沢常造会長）と市による道路補修事業が行われました。

同会では、地域にある素掘りの側溝約50箇所の部分にコンクリート製の側溝を設置するため、事業を申請しました。18日は同会から約10人が労働

者として参加。市が建設機械などを提供して協働作業が行われました。

作業は、素掘りの部分を整地して、コンクリート製側溝を設置し、改めて整地するもの。専門的な技術を必要とする作業のほか、整地などについては市民によって行われました。

日沢会長は「整備することで道路も安全で使いやすくなる。それだけでなく、協働で道路を整備することで、わたしたちも大切に使うようになる」と汗とともに達成感をにじませていました。